

咽喉頭異常感症

監修／島根県斐川中央クリニック 院長 下手 公一

症状と所見

処方

比較的体力がある（実証）

便秘、脇腹や腹部の膨満感、強い胸脇苦満、うつ病

大柴胡湯
（合半夏厚朴湯）

体力は中程度（中間証）

基本処方

かすれ声、動悸、不安、抑うつ傾向

半夏厚朴湯

不眠、不安感、動悸、気うつ、臍上悸
（柴朴湯よりも実証）

柴胡加竜骨牡蛎湯
（合半夏厚朴湯）

中等度の胸脇苦満、咳嗽、気うつ感、動悸

柴朴湯

体力がない（虚証）

自律神経失調症、冷えのぼせ、更年期障害、便秘

加味逍遙散

弱い胸脇苦満、やせ型、冷え、神経過敏

柴胡桂枝乾姜湯
（合半夏厚朴湯）

うつ傾向が強い

抑肝散加陳皮半夏



1 point ワンポイント・アドバイス

咽喉頭異常感症は漢方薬が最も有効な疾患の一つです。しかし咽喉頭異常感症には純粋な異常感症と他の原疾患に伴う症候的なものがありますので、治療に先立って診断を確実にする必要があります。

「喉に何かひっかかっている感じ」は、梅核気あるいはヒステリー球とも言われますが、神経症の患者さんによくみられます。漢方的には気の巡りの悪い状態（気うつ）によって生じると考え、理気剤が効果的で、半夏厚朴湯を中心に治療を組み立てます。